

事業報告

「やさしい日本語」講座

日時：令和2年11月 6日（金） 10:00～16:00（別府市）

令和2年11月20日（金） 10:00～16:00（中津市）

会場：別府市：別府市中央公民館 講座室

中津市：中津文化会館 小ホール

参加者：別府市：9名

中津市：25名

<研修趣旨>

県内在住外国人と地域住民とのコミュニケーションの拡大を図るため、社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流活動の取組を推進する。

外国人に対応する機会が多い行政職員を対象に、「やさしい日本語」の概要や書き方、話し方についての講座を実施し、相手に応じた言葉の選び方や伝え方を知ること、外国人支援に資する。

<研修内容>

【講義】 「多文化社会を生きるー『やさしい日本語』というコミュニケーション」

【演習】 「『やさしい日本語』の使い手になるために」

① 『やさしい日本語』に書き換える ② 『やさしい日本語』で話してみよう

講師：立命館アジア太平洋大学言語教育センター長／教授 本田 明子 氏

参加者は、「やさしい日本語」の難しさに戸惑いながらも、「易しく」伝えるためのルールを知り、「優しく」伝えるために相手を思いやりながらわかりやすく書いたり話したりすることの重要性を実感し、窓口業務や公文書、周知文等に「やさしい日本語」を使用して外国人に情報を知らせたりコミュニケーションを取ったりすることの必要性を改めて実感することができました。

<当日の様子（写真）>

【別府市会場 11月6日（金）別府市中央公民館 講座室】

主催者あいさつ

県立図書館 森山副館長

講師 本田教授

講義のようす



【中津市会場 11月20日（月）中津文化会館 小ホール

講師

本田教授

講義のようす

会話のようす



＜参加者感想＞

- ◇新しい情報を知ることができて有意義な時間を過ごせた。
- ◇とても勉強になった。具体的な例を挙げての説明がわかりやすかった。
- ◇「やさしい日本語」は、日本人にとってやさしくないことがよくわかった。何を伝えないといけないのかをよく考えて、理解して、使えるようになりたい。
- ◇「やさしい日本語」を理解する上で、外国人への差別の意識があることを気付けるいい講座だった。
- ◇窓口に来る留学生が、不快な気持ちをせずに安心して手続きできるチカラになる講座だった。
- ◇概論と演習がしっかりつながっていて、大変わかりやすく、日常で生かしていきたいと思った。（そんな場面がいつ来るかわからないので）
- ◇みんなが住みやすいまちになるよう、相手の立場を想像した声掛け・行動を心掛けたいと思った。相手への変化を求めるという視点から、自分でできることをやってみるという視点も大切にしたい。
- ◇外国の方に分かりやすいような文章を作成するのがこんなにも難しいのかと実感した。相手の状態に応じて伝わりやすい日本語を使うようにしたい。
- ◇窓口職場なので、今日の講座を参考に今後「やさしい日本語」を意識したいと思う。
- ◇英語ではなく、日本語も有効であることは知らなかった。
- ◇とてもよい研修だった。2時間コースくらいだと参加しやすいと思う。
- ◇日頃の業務で活かせるシチュエーションを考えることができた。中国人実習生向けの料理教室やHPに掲載するレシピ等今後で使用できたらと思った。
- ◇「やさしい日本語」は言いたいことをはっきり言うことが重要だとわかったので、これから実践していきたいと思った。